

# 永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2021年 9月

「天国で」「救いの記念(1)」「律法に対するサタンへの敵意」「玉ねぎの詰め物あんかけ」

# 永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

## 目次

今月の聖書勉強

「救いの記念 (I)」

4

聖書の教え

朝のマナ

天国で

8

*In Heavenly Places*

現代の真理

「律法に対するサタンの敵意」

39

キリストと律法

力を得るための食事

「玉ねぎの詰め物あんかけ」

44

レシピ

お話コーナー

「救われた者の家郷 (II)」

46

イエスの物語

### 【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1  
電話：0494-22-0465

### 【沖繩集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21  
電話：0980-55-8136

発行日 2021年8月1日

編集&発行 SDA改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: iStock on Front page; Sermon View on page 48

アクセス [www.4angels.jp](http://www.4angels.jp)

メール [sdarm.shomaru@gmail.com](mailto:sdarm.shomaru@gmail.com)

Printed in Japan

## 品性の変化に対するキリストの死の関係

自分の霊的な関心のために、真理の知識には自分の救いのために十分必要なものがあると考えて、神のみ言葉を読むだけでは十分ではない。わたしたちが読んでいるお方がわたしたちの依存する方にならなければならない。『永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります』。

わたしたちがある教理を真理として信じているからといって安全ではない。わたしたちはその先へ押し進まなければならない。わたしたちの将の言葉が聞こえる、「前進せよ。み言葉を聞くだけではなく、行う者となりなさい」。わたしたちの指導者なるお方に従うことによって、神のみ言葉が示唆し、わたしたちの理解力に明らかにした祝福を所有するようになる。真理をその美しいかたちで受け入れるかもしれないが、それが実生活に持ち込まれ、その感化力を思いと品性に働かせない限り、受ける人にとって救いの真理となることはできない。

わたしたちは愛によって働き、魂をきよめる信仰を持たなければならない。わが親愛なる友人がたよ、ここにあなたがたが他の人々の益のために働くことのできる場所がある。聖書の中にある神の尊いみ旨の啓示は、聖書の明らかにする一切の栄光の真理と共に、目的のための手段に過ぎない。イエス・キリストの死は目的のための手段であった。このお方がわたしたちの世に与えることができた最も力があり、効果のある備えは、手段であった。目的は、人間の代理人を高め、精練し、高尚にすることにあらわれる神の栄光であった。

神への聖潔は人間の意志を神の意志にまで完全に一致させることによって、神に栄光を帰すことである。きよく純潔な思いがある。キリストの買われた所有物として、魂と体はしみもしわもその類いのものが一切なく神に提示されるべきである。これが人を破滅させるサタンの巧妙な働きに反対に作用することがわかるであろう。これはイエス・キリストの功績を通して人間を再創造することである。汚れたものからきよいものが取り出され、人の中に神のみかたちが回復される。人間代理人はイエス・キリストのご品性を眺めることによって、品性の完全という最高の標準に達するために前進しなければならない。(手紙 17a、1893年6月7)

## 第24課 救いの記念 (I)

### わたしたちのための記念物とは？

記念は通常、戦勝や偉人を記念するための巨大な記念碑やオベリスクとして表現されています。何かの重要な記念碑がないという町や村はないでしょう。それでいながら、記念はさまざまな形で、指導者、出来事、善良な人々の重要な働きを覚えて建てられます。公園、病院、美術館、大学、建物、町、または賞や奨学金でさえ、記憶に記念を設けるという目的のために、影響力のあった人の名前が付けられることがあります。

主もまたわたしたちに思い起こさせ、さらに主の変わらないいつくしみ深さや、歴史を通じた導きを教えるために、わたしたちに偉大な記念を残してくださいました。しかし、特に主は、時の終わりまでご自分の民に委任された聖なる働きを思い起こさせるもの、また教訓としてご自分の教会が守るべき記念を残してくださいました。神の教えと働きは、まず信者の中で確立されなければなりません。

過越の祭の前夜に弟子をお集めになったとき、イエスは全時代を通じてもっとも重要なできごと、すなわち救いの計画を後世に伝えるべき記念を制定してくださいました。イエスの犠牲、死、復活は、カルバリーの十字架に集中していました。その場で、弟子たちはイエスが教会のための記念を確立しようとしておられることをほとんど理解していませんでした。しかし、真の残りの民の儀式に教訓が永遠に消えないように刻まれました。

過越の祭は、旧約聖書の型と儀式と共に、神の小羊が十字架にかかることによって成就しようとしていました。新約における新しい儀式が福音教会のために制定されようとしていました。

### 洗足聖餐式

「過越の祭の前に、イエスは、この世を去って父のみもとに行くべき自分の時がきたことを知り、世にいる自分の者たちを愛して、彼らを最後まで愛し通された。

夕食のとき、悪魔はすでにシモンの子イスカリオテのユダの心に、イエスを裏切ろうとする思いを入れていたが、イエスは、父がすべてのものを自分の手にお与えになったこと、また、自分は神から出てきて、神にかえろうとしていることを思い、夕食の席から立ち上がり、上着を脱ぎ、手ぬぐいをとって腰に巻き、それから水をたらいに入れて、弟子たちの足を洗い、腰に巻いた手ぬぐいでふき始められた。」(ヨハネ 13:1-5)。

客の足を洗うということは僕の働きでした。その時は、僕がだれもいなかったため、弟子の中の一人がその役割を引き受けるべきでした。彼らは、キリストの王国での高い地位を望んでいたため、その卑しい働きを引き受けようとはしませんでした。自らへりくだって僕の役割を受け入れることは、あまりにも大きな犠牲でした。

イエスは、弟子たちの利己心と誇りをご覧になったとき、悲しまれました。しかし、本当の偉大さを構成するのは、愛の奉仕と真の謙遜であるという教訓を彼らに見せることがイエスのご目的でした。このお方は、すでに彼らに次のように教えておられました。

「そこで、あなたがたのうちでいちばん偉い者は、仕える人でなければならない。だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう。」(マタイ 23:11, 12)。

イエスは、食卓から立ち上がり、上着を脱いで手拭いを取って腰に巻かれました。弟子たちはそれを見て驚き、何がおきるのかを静かに見守りました。主がひざまずき、彼らの足を洗い始められたとき、彼らの目が開かれました。苦い恥辱と屈辱が彼らの心を満たしました。彼らは、無言の譴責を理解し、自分自身を全く新しい光のうちに見ました。彼らは自分たちの主人を見守りながら、非常に心が動かされました。

「こうして、シモン・ペテロの番になった。すると彼はイエスに、『主よ、あなたがわたしの足をお洗いになるのですか』と言った。イエスは彼に答えて言われた、『わたしのしていることは今あなたにはわからないが、あとでわかるようになるだろう』。ペテロはイエスに言った、『わたしの足を決して洗わないで下さい』。イエスは彼に答えられた、『もしわたしがあなたの足を洗わないなら、あなたはわたしとなんの係わりもなくなる』。シモン・ペテロはイエスに言った、『主よ、では、足だけでなく、どうぞ、手も頭も』。イエスは彼に言われた、『すでにからだを洗っ

た者は、足のほかは洗う必要がない。全身がきれいなのだから。あなたがたはきれいなのだ。しかし、みんながそうなのではない。』(ヨハネ 13:6-10)。

ペテロの順番が来たとき、思ったことをすぐ口にする性格の彼は憤慨してさげばりました。「主よ、あなたがわたしの足をお洗いになるのですか」。イエスのへりくだりは、彼の心を砕きました。弟子のうちだれ一人としてその奉仕を行おうとする者がいなかったことを考えて、彼は恥ずかしい気持ちでいっぱいになりました。ペテロは、主が僕の役割を果たしておられるのを見るに忍びませんでした。彼の全存在が、その屈辱に対して反発していました。彼は、このためにキリストが地上にいられたのだということを理解していませんでした。ペテロは次のように叫びました。「わたしの足を決して洗わないで下さい」。しかし、キリストはペテロに「もしわたしがあなたの足を洗わないなら、あなたはわたしとなんの係わりもなくなる」とお答えになりました。イエスに自分の足を洗っていただくことを拒んだとき、ペテロは彼の心から罪を洗っていただくというより高いきよめを拒んでいたのです。キリストのこれらの言葉により、ペテロは誇りと自分の意志を明け渡しました。彼は、キリストからの分離という考えに耐えられず、次のように言いました。「主よ、では、足だけではなく、どうぞ、手も頭も」。これに対してイエスは次のように答えた。「すでにからだを洗った者は、足のほかは洗う必要がない。全身がきれいなのだから。あなたがたはきれいなのだ。」

イエスが弟子たちの足のちりを洗われたとき、その行為によって、彼らの心から、疎遠、ねたみ、誇りを洗い流したいと願われました。彼らが持っていたその精神では、だれ一人として、キリストと交わる用意はできていませんでした。彼らの心が謙遜さと愛で満たされるまでは、キリストが制定しようとしておられた記念の儀式に参加する用意ができていないのです。イエスは、彼らの足を洗うという行為により、彼らの心から誇りや自己追及をみな洗い流されたのです。

バプテスマでもまた、わたしたちはキリストの血により洗われるのですが、しばしば悪との接触を通して、心の純潔がそこなわれます。わたしたちは、救いの恵みを求めて、キリストの許へ行かなければなりません。わたしたちは、罪深く汚れた心をキリストの心と接触させなければならないのです！

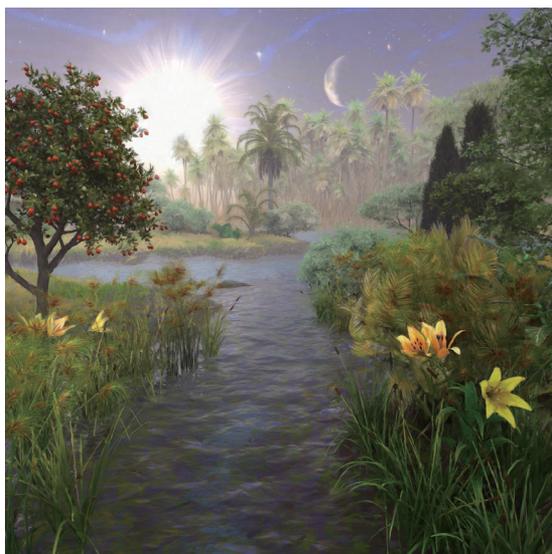
イエスは今や、「あなたがたはきれいなのだ」と言うことができになりました(ヨハネ 13:10)。そのとき、彼らは、儀式の後半部分である主の晩餐にあずかる準備ができたのでした。

イエスは、弟子たちの足を洗うことにより、洗足をご自分の教会における儀式として制定されました。「しかし、主であり、また教師であるわたしが、あなたがたの足を洗ったからには、あなたがたもまた、互に足を洗い合うべきである。わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしは手本を示したのだ。よくよくあなたがたに言うておく。僕はその主人にまさるものではなく、つかわされた者はつかわした者にまさるものではない。もしこれらのことがわかっている、それを行うなら、あなたがたはさいわいである」(ヨハネ 13:14-17)。

この儀式が正しく行われるときはいつでも、神の民はお互いに助け祝福しあう聖なる関係へと導き入れられます。この奉仕の精神を受け入れる人々にとって、それは、決して単なる儀式とはなりません。その儀式は「愛をもって互に仕えなさい」という教えを思い起こさせるのです(ガラテヤ 5:13)。

# 天国で

*In Heavenly Places*



9月

## 試み「なぜ」

「あなたがたの会った試練で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に合わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。」(コリント第一 10:13)

試練とは何か。それは、神の子であると主張している者たちが、テストされ、試される手段である。わたしたちは、神がアブラハムを試みられたというのを読む。また、神がイスラエルの子らを試みられたというのを読む。これは神が、彼らの信仰をテストし、彼らが助けを求めてご自分を眺めるようにと導くような状況が起こることを許されたことを意味する。神は今日、試みがご自分の民に臨むのを許される。それは神が自分たちの助け主であられることを彼らが悟るためである。もし、彼らが試みられたときに、彼らがこのお方に近づくなら、このお方は彼らが試みに直面するために強めてくださる。……

試練がわたしたちの上に激しく臨むであろう。これは、それらによってわたしたちが自分たちの恩恵期間に試されなければならないからである。これは神が試されることであり、わたしたち自身の心があらわにされるのである。誘惑に会うことには罪はないが、誘惑に屈するときに罪が入り込む。……

アブラハムはイサクをかたわらに連れて、「あなたの子あなたの愛するひとり子イサクを連れてモリヤの地に行きわたしが示す山で彼を播祭としてささげなさい」とのご命令にこたえて、自分の道を旅していたとき、神に対する自分の服従を証明した(創世記 22:2)。ヨブは苦しむことを許された。彼は厳しく試みられた。しかし、彼は神に対して一言も口を開かなかった。地上におけるキリストの生涯の間、律法学者やパリサイ人たちは、サタンにそそのかされて、このお方をあらゆる方向から試みた。しかし、このお方は、これらの試みがご自分を服従の道からそらせることを決してお許しにはならなかった。……

キリストの模範は、わたしたちの勝利の唯一の希望がサタンの攻撃に絶えず抵抗することにあることを示している。誘惑との戦いにおいて、魂の敵に対して勝利なさったお方は、人類に及ぼすサタンの力を理解し、わたしたちのために征服して下さった。勝利者として、このお方はご自分の勝利の優位性をわたしたちに与えて下さった。それは、サタンの試みに抵抗するためにわたしたちが努力するとき、わたしたちが自分たちの弱さをこのお方の強さに、わたしたちの無価値さをこのお方の功績に結びつけることができるためである。そして、このお方の永続的な力によって支えられ、強力な試みの下にあって、わたしたちは、このお方の全能の御名において抵抗し、このお方が勝利なさったように勝利することができるのである。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1912年3月12日)

9月2日

## 全能の勝利者キリスト

「この大祭司は、わたしたちの弱さを思いやることのできないようなかたではない。罪は犯されなかったが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われたのである。」(ヘブル 4:15)

イエスが試みられるために荒野へと導かれたときに、このお方は神の御霊によって導かれたのであった。このお方は荒野へと入っていくことによって、誘惑を招かれたのではなかった。しかし、サタンは救い主がそこへ行かれたことを知っており、彼はそれがこのお方に接近する絶好の機会だと考えた。キリストはお一人になるために荒野へと入っていかれた。ご自分の使命と働きを瞑想なさるためであった。キリストは改心と、悔い改めとバプテスマにおいて、すべての罪人が経なければならぬ段階を経てこられた。このお方ご自身には、悔い改めるべき罪はなかった。それで、このお方には洗い去るべき罪はなかった。しかし、このお方はあらゆることにおいてわたしたちの模範であられた。したがってこのお方は、ご自分が、わたしたちにするようにと望んでおられることをなさらなければならなかった。

キリストは、ご自分が歩まなければならない血染めの道に備えて断食して祈られた。このお方はとこしえの神のひとり子であられた。しかし人間の保証としてこのお方は人間を襲うすべての誘惑に会い、抵抗なさらねばならなかった。……ご自分にのしかかる世の恐ろしい罪の重さと共に、このお方は食欲について、世への愛着について、そして僭越へと導く誇示欲について、恐るべきテストを耐えられた。……

もし、キリストの兵士たちがご命令を待って、自分の将を忠実に仰いでいるならば、彼らの敵との戦いには成功が伴うのである。彼らがどのように包囲されようとも、最終的には彼らが勝利者である。彼らの弱さは多くあり、彼らの罪は大きいかもしれない。彼らの無知は克服しがたいように思えるかもしれない。しかし、もし彼らが自分たちの弱さを悟って、助けを求めてキリストを仰ぐならば、このお方は彼らの力となってくださる。……もし、彼らがこのお方の力を自分たちのものとするならば、彼らの品性は変えられる。彼らは光と聖潔の雰囲気に取り囲まれるのである。このお方の功績と与えられた力によって、彼らは「勝ち得てあまりある」者となるのである。超自然的な助けが彼らに与えられ彼らは自分たちの弱さのうちにありながら、全能者の行いができるようになる。……

信仰によって彼らはすべての敵を平静に見渡し、宣言しなければならぬ。「われわれは全能の御力の指揮のもとに、信仰の良き戦いを戦う。このお方が生きておられるから、われわれも生きるのである。イエスによって……われわれは敵のあらゆる火のような矢に耐えることができる。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1912年3月12日)

## 一人ひとりの魂をめぐる見えざる戦い

「わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。」(エペソ 6:12)

わたしたちは目に見えないものたちの間で繰り広げられている大争闘、すなわち忠実な天使と不忠実な天使たちの間の闘いを、わたしたちが理解すべきほどには理解していない。すべての人をめぐって、善と悪の天使たちが戦っている。これは架空の闘いではない。わたしたちが戦っているのは見せかけの戦闘ではない。わたしたちはもっとも強力な敵たちに直面しなければならない。そして、どちらが勝つかはわたしたちにかかっている。(教会への証 7巻 213)

人類が悪天使の数を知ることができるなら、また彼らが悪天使たちの策略や彼らの活動を知ることができるなら、誇りや軽率さをはるかに少なくなることであろう。サタンは悪魔の君である。彼が支配している悪天使たちは彼の命令に従う。彼らを通して、サタンは自分の代理人たちを増やす。……彼は世に存在するすべての悪を扇動するのである。(SDA バイブルコメント [E・G・ホワイト・コメント] 6巻 1119)

サタンは一人の魂を失う危険があるのがわかると、その魂を自分のものにしておくために全力を尽くす。そして各々が自分の危険に目覚めて、悲嘆にくれ、熱烈に、力を求めてイエスを仰ぐとき、サタンは自分が捕虜を失うのではないかと恐れて、哀れな魂をとり囲むために自分の使たちの援軍を呼び集め、その周りに闇の垣を作り、天の光が彼に届かないようにする。

しかし、もし危険のうちにある者が辛抱して、無力なままキリストの血の功績に自らをゆだねるならば、わたしたちの救い主は信仰の熱烈な祈りを聞いて、彼を救うために力強いその御使たちの援軍を送ってくださる。サタンは強力なライバルが訴えるのに堪えることができない。なぜなら、彼はこのお方の力と大権の前に震えおののくからである。熱烈な祈りを聞くと、サタンの全軍は震える。……そして天の武装を身にまとった全能の御使たちが、追跡を受けて気を失いそのような魂を助けに来るとき、サタンとその軍隊とは退く。……天地の偉大な指揮者がサタンの力に歯止めをかけられるのである。(教会への証 1巻 345, 346)

すべての誘惑されている魂の周りには、もし誘惑されている者がただ悪に抵抗する精神を示しさえすれば、義の旗印を掲げようと待機している神の御使たちがいる。各人が勝利者になることができる。キリストはわたしたちのために、敵の最も激しい誘惑に抵抗してくださったのである。(ビュー・アンド・ワールド 1907年 8月8日)

9月4日

## サタンの陣地に近づかない

「わが子よ、悪者があなたを誘っても、それに従ってはならない。」(箴言 1:10)

わたしたちは敵の陣地に自らの身を置いてはならない。わたしたちはここでは執行猶予中の者に過ぎない。わたしたちは誘惑する悪魔などいないかのように行動してはならない。わたしたちに訪れる誘惑がある。そして、わたしたちがそれらを受け入れ、思いのうちにとどめておくならば、必ず自分たちの魂を危険に陥れてしまう。わたしたちは、自分たちの足が安全な道にあることを知りたいのである。

不服従で世的な思いを持った者たちと交わるあなたは、次の勧告に注意なさい。「だから、彼らの間から出て行き、彼らと分離せよ、と主は言われる。そして、汚れたものに触れてはならない。触れなければ、わたしはあなたがたを受けいれよう。そしてわたしは、あなたがたの父となり、あなたがたは、わたしのむすこ、むすめとなるであろう。全能の主が、こう言われる」(コリント第二 6:17, 18)。天の神と生きたつながりを持つというのは、わたしたちにとって十分な励ましではないであろうか。

あなたが罪のあるところに行き、自らを敵地に置くとき、あなたは、神の天使があなたを悪影響から守ることのない場所に自らの身を置いているのである。わたしたちは、キリストが絶えずわたしたちの傍らにいてくださることを知っていなければならない。わたしたちは、キリストに全信頼を置かなければならない。……神の感化の下にない人間の性質を、あなたはいったい頼みとすることができるであろうか。世は、このお方を知らない。このお方の戒めを守る者と、守らない者との間を区別する線は明白ではっきりしている。わたしたちは、世に仕えながら、神を喜ばせることはできない。……

多くの者は自分の宗教のゆえに悲しんでいるように見える。わたしたちは、自分たちがクリスチャンだからといって、世に許しを請いながら歩きまわるべきではない。わたしはただ、わたしがキリストにあつて完全でないために、このお方の許しを請うばかりである。……もしわたしたちがイエスを愛するならば、神の相続者となり、御父はご自分のひとり子イエス・キリストを愛されるようにわたしたちを愛してくださる。わたしたちは王家の一員であり、天の王の子なのである。……

キリストがご自分の御父に服従し、このお方の律法をご自分の目の瞳のように守ることが、キリストの最高の榮譽であった。それがわたしたちの品性にこの効果をもたらすようにしよう。……イエスを高めよう。このお方にわたしたちの心の最上の奉仕をささげよう。そのとき、このお方はわたしはあなたがたをわたしの父とこのお方の御使たちの前で告白しようと仰せになる。(原稿 14, 1893 年)

## 決してサタンの挑戦に応じない

「イエスは彼に言われた、『主なるあなたの神を試みてはならない』とまた書いてある』。(マタイ 4:7)

サタンがどれほど言葉巧みに、また狡猾に、ご自身の身を宮から投じてみよとキリストに言ったのか、すべての者は覚えていよう。彼はこのお方に聖句を引用しながら、これこそまさにこのお方のなすべきことであると、このお方に示した。なぜなら、それによってこのお方はご自分の正体が主張しておられるとおりでであるという証拠をすべての人々に与えることができるからであると。「もしあなたが神の子であるなら、下へ飛びおりてごらんさない。『神はあなたのために御使たちにお命じになると、あなたの足が石に打ちつけられないように、彼らはあなたを手でささえるであろう』と書いてありますから」(マタイ 4:6)。

サタンは、聖句を引用する際に、最も重要な部分を語らなかつた。……「あなたの歩むすべての道であなたを守らせられる」(詩篇 91:11)。サタンの命令に同意することによって、キリストは神がご自分のひとり子のために計画された道ではなく、サタンの道に踏み込むことになるのであつた。それは挑戦であつて、サタンの手下は自分の挑戦に応じる者たちを意のままにする機会をとらえるために僭越な挑戦に満ちている。しかし、キリストはサタンの挑戦に応じられなかつた。キリストは、大欺瞞者であり、誘惑者である者との争闘に入れなかつた。このお方は、『主なるあなたの神を試みてはならない』とまた書いてある」と仰せになつた。……

御使たちは、仕える霊としての義務が、救いの相続者たちに旅をするようにと命じる道にいる。そして、神は彼らをあらゆる悪から守つてくださる。しかし、サタンが自分自身の道を示すとき、……キリストにはその道に歩まれる権利はなかつた。このお方は、ご自分の足を主の示された道にとどめておかねばならなかつた。こうしてキリストはその人性において、人がサタンのほめかしによって誘惑されるとき何をすべきかという模範を残されたのである。

わたしたちは、サタンにそそのかされて神が発案されなかつた申し出をする人たちに真理を証明するために、挑戦に応じてはならない。なぜなら、サタンはこの方法によって、わたしたちを神の摂理の道から踏み外させ、またわたしたちが敵によって敗北し、わたしたち自身が打ち負かされて傷つき、また神の働きが損害を受けるような立場に自らの身を置くようにしむけるからである。(手紙 96, 1900年)

わたしたちの唯一の安全は、毎日毎時間見張ることである。わたしたちは、怠情になったり、不注意になったりすることはできない。わたしはあなたに、神はご自分の民が警戒していることを望んでおられると申し上げる。(同上)

9月6日

## イエスの力ある御名のうちに勝利する

「主の名は堅固なやぐらのようだ、正しい者はその中に走りこんで救を得る。」(箴言 18:10)

キリストが最も激しい誘惑に襲われたのは、最も弱っておられるときであった。こうしてサタンは打ち負かそうと思った。この方針にのっとり、彼は人間に対して勝利してきた。力が衰え、そして、意志の力が弱くなる時、そして信仰が神のうちに憩うことをやめるとき、そのとき、正しいことのために長く、雄々しく耐えてきた者が打ち負かされる。一瞬モーセの信仰が無限の力を手放してしまったとき、彼は四十年間のイスラエルの放浪に疲れきっていた。彼は約束の地にまぎに入ろうというところで失敗した。エリヤも同様であった。彼はアハブ王の前で勇敢に立ち、四百五十人というバアルの預言者たちを筆頭に全イスラエル国家と対決した。偽預言者たちが殺され、民が自分たちの神に対する忠誠を宣言したカルメル山での恐るべき日の後、エリヤは偶像礼拝者であるイゼベルの脅迫の前に命からがら逃げたのであった。こうして、サタンは人類の弱さを有利に用いてきた。……

だれかが雲に取り囲まれたり、状況によって困惑したり、または貧困や悲嘆にくれて苦しんだりするときはいつでも、サタンは誘惑し、悩ませるためにすぐそばにいる。彼はわたしたちの品性の弱点を攻撃する。彼は、このような状況が存在することを許される神に対するわたしたちの確信を揺り動かそうとする。わたしたちは、神を信頼しないように、このお方の愛を疑うようにと誘惑される。しばしば誘惑者は、キリストのところへ来たように、わたしたちのところに来て、わたしたちの前にわたしたちの弱さと欠陥を並べ立てる。彼は魂が失望して、神をつかむわたしたちの手が離れてしまうことを望んでいる。そのとき、彼は獲物が確実に自分のものであることを知っている。もし、わたしたちが彼に対して、イエスのように応じるならば、わたしたちは多くの敗北をまぬかれるのである。敵と協議することによって、わたしたちは彼を有利にしてしまう。……

イエスは神への服従と信仰を通して勝利を得られた。そして使徒を通してこのお方はわたしたちに、「そういうわけだから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ちむかいなさい。そうすれば、彼はあなたがたから逃げ去るであろう」と仰せになっている(ヤコブ4:7)。わたしたちは自らを誘惑者の力から救うことはできない。彼は人類を征服してきた。そしてわたしたちが自分自身の力で立とうとするとき、わたしたちは彼の策略の餌食となってしまう。しかし、「主の名は堅固なやぐらのようだ、正しい者はその中に走りこんで救を得る」。サタンは、力ある御名のうちに避け所を見出す最も弱い魂の前に震えて逃げるのである。(原稿 15, 1908 年)

## 誘惑にあわない者はいない

「あなたがたは、終りの時に啓示さるべき救にあずかるために、信仰により神の御力に守られているのである。そのことを思つて、今しばらくのあいだは、さまざまな試練で悩まねばならないかも知れないが、あなたがたは大いに喜んでいる。」(ペテロ第一 1:5, 6)

クリスチャン生涯に誘惑がないと思つてはならない。誘惑はすべてのクリスチャンに訪れる。クリスチャンにも、キリストを自分の指導者として受け入れない者にも試練はある。違いは、後者が暴君の悲惨な苦役を行いながら、彼に仕えているのに対し、クリスチャンは、自分に永遠の命を与えるため死んでくださったお方に仕えていることである。試練をあやしんではならない。そうではなく、それらによってわたしたちは精練され、強められるのである。ヤコブは「あなたがたが、いろいろな試練に会った場合、それをむしろ非常に喜ばしいことと思いなさい。あなたがたの知っているとおり、信仰がためされることによって、忍耐が生み出されるからである」と訓告している(ヤコブ 1:2, 3)。

将来の生涯において、わたしたちは、ここでわたしたちを大いに困惑させた事柄を理解するようになる。わたしたちは、自分たちにどれほど力強い助け主がおられたかを、またわたしたちが神のみ言葉の勧告に従うとき、神の御使たちがどのようにわたしたちを守る任命を受けていたかを悟るのである。

キリストを受け入れる者すべてに、このお方は神の子となる力を与えてくださる。このお方はすべての危急のときのいと近き助けであられる。わたしたちは自分たちの揺れ動く信仰に恥じ入ろう。敗北した者は、自分が敵に抵抗するのに失敗したことに対して自分を責めるしかない。すべての者は選択によって、キリストの許に来て、自分たちの必要な助けを見出すことができる。

あなたがたの間には、全能であられる各時代の相談者がおられる。このお方はあなたの信頼をご自分に置くようにと招いておられる。わたしたちは、このお方に背を向けて、不確かな人間に向かうのであろうか。彼らはわたしたちと同様に、まったく神に依存しているのである。わたしたちは、これほどまで低く自分たちの特権から落ちてしまったのであろうか。わたしたちは、あまりにもわずかしか期待せず神が与えたいと切望しておられるものを求めてこなかったことに対して罪があらはしないであろうか。

「わたしは主がわれわれになされたすべてのことによって、主のいつくしみと、主の誉とを語り告げ、また、……イスラエルの家に施されたその大いなる恵みを語り告げよう。主は言われた、『まことに彼らはわが民、偽りのない子らである』と。そして主は彼らの救主となられた。彼らのすべての悩みるとき、主も悩まれて、そのみ前の使をもって彼らを救い、その愛とあわれみによって彼らをあがない、いにしえの日、つねに彼らをもたげ、彼らを携えられた」(イザヤ 63:7-9)。(レビュー・アソド・ハラド 1910年6月9日)

9月8日

## 人生行路における危険

「わたしの足をすべることがないように、わたしの歩みをあなたの道に堅く保ってください。」(詩篇 17:5 英文訳)

ほかのどの時代にもまさってこの時代は、人生行路に危険がからみついており、わたしはとてもそれを描写することができないほどである。聖化された道からたった一度外れても、サタンは有利になり、彼はますますおびき寄せて、ますます正しさと真理から離れさせる。……

生きていく魂にとってだれ一人、老若を問わず、サタンの誘惑から安全な者はいない。そして聖くない人々と結びつくことを選ぶ者は、彼らの精神を吸収して、同じような実を結ぶようになる。わたしたちのうちだれにとっても唯一の安全は、へりくだって神とともに歩むこと、主人が道案内をしてくださるところを進むことにある。……

わたしたちはやめることなく祈る必要がある。心が神を慕いもとめるようにしなさい。約束を信じ、信頼し、つかんで、ヤコブのように、「わたしを祝福してください。さらならぬなら、あなたを去らせません」と言って、日ごとに時間ごとに祈りのうちに心が向かうようにしなさい(創世記 32:26)。ああ神よ、「わたしの足が」人がわたしの足を陥れるために掘るかもしれない落とし穴に「すべることがないように、わたしの歩みをあなたの道に堅く保ってください」。

良心からひとつの防壁を取り除くこと、主がまさに示して下さったことを行うのに失敗すること、悪い原則の道に一步踏み出すことは、しばしば人生と行動の完全な変化へといたる。……わたしたちは、キリストが道案内をして下さるところに従うときのみ安全である。道はますますはっきりとし、明るく、さらに明るくなり、ついに真昼となる。

人の仕事は、神と協力して働くことである。一人では、一見もっとも安全な道へと足がすべり込んでしまう。わたしたちは、単なる人間の知恵によっては一歩たりとも安全に歩むことができない。もし、わたしたちが恐れずに歩みたいのであれば、わたしたちは、イエス・キリストの御手がわたしたちの手を強く握ってくださることを知らなければならない。そして、わたしたちは、生ける神の御言葉をさぐることによってのみ、このことを知ることができるのである。……

神は人がご自分に依存していると感じ、そして御手が最高にまで救うことがおできになること、また御心が苦しんでいる人類の嘆願に答えて脈打つことに信頼するようにと望んでおられる。わたしたちは人間に信頼したり、肉を頼みとしたりしてはならない。わたしたちは命のかよった暖かい御手と希望のない者への愛で脈打つ心に信頼をおかなくてはならない。(手紙 71, 1898 年)

## 闘いのために武装する

「それだから、悪しき日にあたって、よく抵抗し、完全に勝ち抜いて、堅く立ちうるために、神の武具を身につけなさい。」(エペソ 6:13)

人間の魂を巡ってキリストとサタンの間で行われている闘いを理解していない者が大勢いる。彼らは、もし自分たちがインマヌエルの君の血染めの旗の下にいたいならば、喜んでこのお方の闘いにあずかる者となり、闇の権力に対する決定的な戦いを遂行せねばならないことを悟っていないことを悟っていない。

この闘いのことを考えて、パウロは自分のエペソの兄弟たちに、弱々しく、揺れ動く海の波のようにあちらこちらに激しく動揺することなく、「強く」ありなさいと訓戒して手紙を書いている。しかし、彼らは何において強くなるのであろうか。自分自身の力においてであろうか。そうではない。「主にあつて、その偉大な力によって、強くなりなさい」と彼は言っている。「悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武具で身を固めなさい。わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである…」(エペソ 6:10-13)。

永遠の命を獲得することには、いつも苦闘、また戦いが含まれている。わたしたちは、絶えず信仰の良き戦いを闘っているのを見出されるべきである。わたしたちは、キリストの兵士である。そして、このお方の軍隊に入隊する者たちは、困難な働きをするように期待されている。その働きは彼らの精力に極限まで重い負担を課する働きである。わたしたちは、兵士の一生とは、激しい戦いと辛抱と忍耐の一生であることを理解しなければならない。わたしたちはキリストのために、試練に耐えなければならない。

勝利は、儀式や人に見せることによって獲得されるのではなく、最高の将軍、すなわち天の主なる神への単純な服従によって得られるのである。この指導者に信頼する者は、決して敗北を知ることがない。神への服従は、罪の奴隷の束縛からの自由であり、人間の激情や衝動からの解放である。人は自分自身の勝利者、自分自身の傾向の勝利者、支配と権威、そして「やみの世の主権者」と「天上にいる悪の霊」の勝利者となることができる。……

「それだから、悪しき日にあたって、よく抵抗し、完全に勝ち抜いて、堅く立ちうるために、神の武具を身につけなさい」(ビュー・アズ・ワルド 1908年12月17日)

9月10日

## 勝利のためには 断固とした決意が不可欠である

「あなたがたは、罪と取り組んで戦う時、まだ血を流すほどの抵抗をしたことがない。」(ヘブル 12:4)

アダムの墮落以来、各時代において、悪の代理人たちの反対が、神の戒めに忠実で真実であろうとする人たちの生涯を絶えざる戦いにしてきた。最終的に勝利者になりたい者たちは、一步前進するごとに激しい決意で反対するサタン勢力に会い、征服しなければならない。彼らは怠ることのない敵、決してまどろむことなく、倦まずたゆまず神の僕たちの信仰をむしばもうとするずるがしこい敵に会わなければならない。善と悪は決して調和しない。……

光と闇の間には妥協の余地がない。真理とは明らかにされた光であり、誤りは闇である。光は闇と何の関わりもないし、義は不義と何の関わりもない。……

わたしは、このことをありのままに提示する言葉をつづれるならばと願う。神はご自分の兵士たちがいつも任務についていることを望んでおられる。彼らは決して誘惑に屈してはならないし、不正な者となってはならない。彼らは、屈しても逃げてもならない。彼らは神の力により頼んで、自分たちの高潔さを維持しなければならない。一センチも譲らない堅固さをもって、彼らは、「こう書かれている」というみ言葉に固守しなければならない。

わたしたちは、キリストがわたしたちのために勝利してくださったので、わたしたちは有利な立場におかれているのだということをいつも覚えていなさい。このお方は、わたしたちが勝利するためのすべての備えをしてくださった神の御力が、正しいことを行おうと断固として決意したすべての意志の背後に待機している。神は、各々が戦うための武具と武器とを備えてこられた。キリストの兵士たちは全身に神の武具をまとい、サタンの攻撃にたじろがないようにしよう。……クリスチャンの戦いにおける成功とは、見張ることと、日毎に自己を十字架につけることを意味する。清くて聖なる原則によって導かれている者は、悪のほんのわずかな汚点をもすばやく見分ける。なぜなら、彼は、いつもキリストを自分の模範として目の前においているからである。彼が悪い行為を見つけて深く悲しむことは、彼が真理から分かれて踏み出してしまった一步一步を速やかに正すことを意味している。それは、クリスチャン生涯におけるより高い、さらに高い達成を求めて、耐えず熱心に努力することを意味している。それは、他の人々が天へ向かって上るのを助けることを意味している。それは、キリストを生きた信仰によってつかんでいること、そしてもし必要であれば血を流しても悪に抵抗すること、罪に対してあらがうことを意味している。(原稿 82, 1900年)

## ダニエルのように堅固に

「しかし主なる神はわたしを助けられる。それゆえ、わたしは恥じることがなかった。それゆえ、わたしは顔を火打石のようにした。わたしは決してはずかしめられないことを知る。」(イザヤ 50:7)

青年には、ダニエルという模範がある。そして、もし彼らが原則と義務に真実であるならば、ダニエルが指導されたように指導されるのである。世の知恵の見地からすれば彼と彼の三人の友達には、あらゆる便宜が与えられていた。しかし、ここで彼らには最初のテストが訪れたのであった。彼らの原則は、王の決まりや手配と衝突せざるを得なかった。彼らは、自分たちの食卓に置かれた食物を食べ、自分たちのぶどう酒を飲まなければならなかった。……ダニエルは、「王の食物と、王の飲む酒とをもって、自分を汚すまいと、心に思い定めたので、自分を汚さることのないように、宦官の長に求めた」(ダニエル 1:8)。

この要求は尊大な精神でなされたのではなく、大変な恩寵として嘆願されたのであった。……ダニエルと彼の友達は、……礼儀正しく、親切で、尊敬の念に満ち、柔和と慎みの恵みを持っていた。そして、今やダニエルと彼の友達はテストに直面したとき、自らの身を完全に義と真理の側に置いたのである。彼らは気まぐれにではなく、知的に行動したのであった。彼らは肉食が彼らの食事となることはこれまでもなかったし、これから将来においても、自分たちの食事となるべきではないと決心した。そして、ぶどう酒の使用は神の奉仕に携わる者はすべて禁じられていたので、彼らはそれを飲むことはしないと決心した。……

ダニエルと彼の友人たちには、自分たちの決定の結果がどのようなものになるかわからなかった。彼らはそのために自分たちの命の代償を支払うことになるかもしれないということしか知らなかった。しかし、彼らは贅沢なバビロンの宮廷においてさえ、厳密な節制の狭い道を守り続ける決心をした。……これらの青年たちの正しい行いは彼らに恩寵をもたらした。彼らは自分たちの事情を神の御手にゆだね、万事における自己否定と節制の規律に従った。そして主はダニエルとその友達に協力なされた。……

これらの詳細がイスラエルの子らの歴史に記録として残されている。それは、いかなる方法によっても神を辱めることになる習慣や、慣習、そして放縦に近づくことは一切避けるようにというすべての青年たちに対する警告として記録されているのである。(原稿 51, 1898 年)

9月12日

## だれ一人打ち負かされる必要はない

「試練を耐え忍ぶ人は、さいわいである。それを忍びとおしたなら、神を愛する者たちに約束されたいのちの冠を受けるであろう。」(ヤコブ 1:12)

試練がわたしたちの生涯に訪れるとき、雲が地平線を暗くするとき、わたしたちはイエスがわたしたちの救い主であられること、雲の向こうに義の太陽が輝いていること、御使たちがわたしたちを害から守るためにそば近くにいることを何とたやすく忘れてしまうことであろう。わたしは失望している人に、見て生きよと言いたいのである。神に望みをおきなさい。なぜなら、カルバリーの十字架上であなたのために完全な犠牲がささげられたからである。イエスは、罪人の友、罪人の贖い主であられる。永遠の喜び、すなわち、曇りのない幸福の生涯が、すべてをキリストに捧げるものを待っている。自己から目を離してイエスを見なさい。このお方は、神の御座の前であなたのために嘆願しておられる。このお方のみ言葉を聞きなさい。「わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう」「わたしに来る者を決して拒みはしない」(マタイ 11:28, ヨハネ 6:37)。信仰の手をもって神の約束をつかみなさい。これらの祝福をいつか将来ではなく、今日、自分のものとしなさい。

最も強力な誘惑も罪の言い訳とはならない。どんなに魂にのしかかる重圧が大きくても、違法はわたしたち自身の行為である。地や地獄の力には、だれ一人悪を強いることはできない。サタンはわたしたちの最も弱い点を攻撃してくるが、わたしたちはそれでも打ち負かされる必要はない。攻撃がどんなに厳しく、予期しないものであったとしても、神はわたしたちのために助けを供えられ、そして、このお方の力によって、わたしたちは、勝利することができる。最大の必要時、すなわち落胆が魂を圧倒するときこそ、イエスが最も近くにこられるときである。人の必要は神の好機である。このお方は、わたしたちの危険をご覧になり、わたしたちに助けを提供してくださる。……

あなたがイエスと歩むとき、あなたは陰を歩まねばならないと考えてはならない。世の中で最も幸福な人々は、イエスを信頼し、このお方のご命令を喜んで行う者たちである。このお方は命の光であられる。このお方に従う者たちの生涯からは、不安や不満は払拭される。満たされた心をもって、彼らは、知者の言葉を繰り返す。知恵の「道は楽しい道であり、その道筋はみな平安である」(箴言 3:17)。彼らが試練や困難にあっても、彼らの生涯は喜びに満ちている。なぜなら、キリストが彼らの傍らに歩んでくださり、そして、このお方のご臨在が道を明るくしてくださるからである。(ビュー・アンド・ヘルド 1907年4月18日)

## 潮流に逆らって進む

「すると、ある人がイエスに、『主よ、救われる人は少ないのですか』と尋ねた。そこでイエスは人々にむかって言われた、『狭い戸口からはいるように努めなさい。事実、はいろうとしても、はいれない人が多いのだから。』」(ルカ 13:23, 24)

わたしたちが入ろうとしても、入れない人が多いというのを読むとき、では、成功するためにはどうしたらよいかを理解したいのである。わたしたちにとって、この言葉、すなわち単に入ろうとするだけで、努力しないために狭い門から入ることに失敗する者たちがいるというのは嘆かわしいものである。……

わたしたちは罪や悪が広く行き渡っている世にいる。そして、わたしたちは命を受け継ぐためには何をすべきかを知りたいのである。わたしたちはだれ一人として、勝利者に提供されている大きな報いを受け損なうわけにはいかない。わたしたちは自分たちが地に向かう代わりに天に向かって歩みを進めていることを知りたいのである。……

神の十戒に従うと公言しているわたしたちには、わたしたちの周りにいる世に対してわたしたちが天に向かって自分の歩みを進めていることを示すという重大にして厳粛な責任が負わされている。そして、わたしたちがすべてをなぎ倒す潮流に逆らって押し進むとき、そのとき、わたしたちは、自分たちが何のために苦闘しているのか知るべきである。わたしたちは、キリスト・イエスにあるわたしたちの高い召しの賞与を目当てに、押し進んでいる。わたしたちは、無気力な抵抗のうちにとどまりながら、なお賞与を得ることはできない。……

わたしたちは、キリスト・イエスに会って満ち満ちた男女の高さにまで成長しなければならぬ。こうして、わたしたちは、主に尊い宮へと成長するのである。このお方は「わたしは彼らの間に住み、かつ出入りをするであろう。そして、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となるであろう」と仰せになる(コリント第二 6:16)。……わたしたちが必要としているのは、わたしたちの魂の宮における神の霊である。わたしたちは常に顔を天に向けていたいのである。そして、わたしたちが自分のうちで罪が至上権を得ようとしているのを見たら、そのときわたしたちは戦わなければならないのである。……

憐れみ深い救い主は、あなたを助けようとあなたの傍らに立っておられる。このお方は、あなたが罪を克服しようともがいているとき、サタンがあなたに対して勝利を得ることができないように、すべての栄光にまぎった天使を遣わしてくださるのである。……キリストは、人からみつく誘惑のうちにいる人間の下に降りてくることがおできになるために、ご自分に人性をまわれた。憐れみ深い贖い主は、わたしたちのすべての苦闘において、わたしたちをどのように助けるかをはっきりご存知である。(原稿 5, 1886 年)

9月14日

## わたしたちの仲保者イエス

「わたしの子たちよ。これらのことを書きおくるのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためである。もし、罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる。」(ヨハネ第一2:1)

罪に誘惑されるときには、イエスがわたしたちのために天の聖所で嘆願しておられることを思い出そう。わたしたちが自分の罪を捨てて、信仰のうちにこのお方の御許に来るとき、このお方は、わたしたちの名をご自分の唇に乗せて、それらを御父に提示し、次のように仰せになる。「わたしは、わたしのたなごころに彼らを彫り刻みました。わたしは名をもって彼らを知っています」。そして、彼らを守るようにとの命令が天使たちに出される。そして、火のような試練のときに、このお方は、「さあ、わが民よ、あなたのへやにはいり、あなたのうしろの戸を閉じて、憤りの過ぎ去るまで、しばらく隠れよ」と仰せになるのである(イザヤ26:20)。彼らが隠れる部屋とは何であろうか。それらは、キリストと聖天使たちの保護である。神の民は、このとき、全員一か所にいるのではない。彼らは、さまざまの群れの中で、全地に散っているのである。そして彼らは団体としてではなく、個人として試される。すべての者は自分自身でテストに耐えなければならない。

神の民が今ほど神のみ約束をわがものと主張する必要が大きい時はない。信仰の手で闇を突き抜けて、無限の御力の腕をつかみなさい。わたしたちが罪からの分離の必要を語るとき、キリストが罪人を救うためにわたしたちの世に来てくださったこと、そして、このお方は「彼によって神に来る人々を、いつも救うことができる」ことを覚えていなさい(ヘブル7:25)。このお方の血はわたしたちをすべての罪の汚点としみから清めることができるということを信じるのは、わたしたちの特権である。わたしたちはイスラエルの聖者の御力に限界を設けるべきではない。このお方は、わたしたちが、罪深く、汚れたありのままに御許に来ることを望んでおられる。このお方の血には力がある。……もし、あなたが誘惑に陥ったならば、失望してはならない。この約束は、わたしたちの時代にまで鳴り響いているのである。すなわち、「もし、罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる」。わたしはこのひとつの約束のために、絶え間ない賛美の歌があふれ出るべきであると感じる。……

これらの約束という尊い宝石を集めよう。そしてサタンがわたしたちの重大な罪深さを責めてわたしたちに神の救う力を疑わせようと誘惑するとき、キリストのみ言葉を繰り返そう。「わたしに来る者を決して拒みはしない」(ヨハネ6:37)。(ビュー・アンド・ワールド 1908年11月19日)

## 神の訓練の下で

「見よ、神に戒められる人はさいわいだ。それゆえ全能者の懲らしめを軽んじてはならない。彼は傷つけ、また包み、撃ち、またその手をもっていやされる。」(ヨブ 5:17, 18)

わたしたちの天父は、人の子らを進んで苦しめたり、悲しませたりはなさらない。このお方は、つむじ風や嵐、火災や洪水のうちに目的を持っておられる。主は、ご自分の民をさらに大きな危険から救うために彼らに災害がおとずれることをお許しになる。このお方は、すべての人が自分自身の心を厳密に注意深く吟味し、それから神が彼の近くに来ることがおできになるように、彼が神に近づくことを望んでおられる。

わたしたちの命は、神の御手のうちにある。このお方は、わたしたちが見ることのできない危険がわたしたちを脅かしているのをご覧になる。このお方はわたしたちにあらゆる祝福を与えてくださるお方である。わたしたちのすべてのあわれみを供与してくださるお方である。わたしたちのすべての経験を指図してくださるお方である。このお方はわたしたちが見ることのできない危険をご覧になる。このお方は、ご自分の民にその心が悲しみで満たされるようなことが訪れるのを許されるかもしれない。それは、このお方が、足なえが道から外れてしまうことがないように、彼らの足のために道をまっすぐにする必要をご覧になるからである。このお方は、わたしたちの造られたさまを知り、わたしたちのちりであることを覚えておられる。わたしたちの頭の毛でさえ、数えられている。このお方は自然の要因を通して、ご自分がご自分の民を忘れてはおられないことを彼らに思い出させ、もし彼らが抑制されたり譴責されたりすることなく進むことを許されるなら、大変な危険へと導く道を彼らが捨てることをご自分が望んでおられることを思い出させてくださる。わたしたち全員に、自分たちの心を探るようにと導く訓練が訪れる。それは、心が汚すものすべてから清められているかどうかを知るためである。絶えず主はわたしたちの現在と永遠の益のために働いておられる。……

救われる魂はみな、キリストと共にこのお方の苦しみにあずかる者とならなければならぬ。それは、このお方の栄光にこのお方と共にあずかることができるためである。なぜ神が彼らを訓練の下に置かれるかを理解している者が何と少ないことであろう。わたしたちが霊的な強さを自分のものとするのは、わたしたちの信仰が試されることによつてである。主は、ご自分の民がまったくご自分より頼むよう教育しようとしておられる。……

すべての者が自分の一連の行動を吟味しよう。みな、自分は神が自分の前においてくださった標準に達しているかを自問してみよう。わたしたちは心から、わたしは自分自身の意志を放棄する、と言うことができるであろうか。「わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます。あなたのおきてはわたしの心のうちにあります」と。わたしたちは、日ごとに「主よ、あなたがわたしに求めておられることは何でしょうか」とたずねているであろうか。(特別な証シリーズ B6 番 5-7)

9月16日

## 全行程に待ち受けているテスト

「わが子よ、主の懲らしめを軽んじてはならない、その戒めをきらってはならない。主は、愛する者を、戒められるからである、あたかも父がその愛する子を戒めるように。」(箴言 3:11, 12)

神は人間が、自分たち自身ではなく、自分たちを超えた力に信頼しているかどうかを見るために苦しい状況におかれる。神は人間が見るようにはご覧にならない。このお方は、しばしば人間のつながりをたち切って、人が入念に計画した自分には完全だと思える順序をお変えにならなければならないのである。人が自分の霊的また現世の益となると考えているものが、キリストに従う者となるために持たなければならない経験とはまったく相反するものであるかもしれない。自分自身の価値に対する自分の考えはまったく誤ったものであるかもしれない。

地から天に至る道すがら、全行程にテストが用意されている。このために、天への道は狭い道だと言われているのである。品性はテストされなければならない。さもなければ、自分の傾向や自分の方法を望む自分たちの願望が誇りや野心とぶつからない限り、宗教のまことしやかな外観を保っている多くの偽のクリスチャンたちがいることであろう。主の許しによって激しい試練が彼らに臨むとき、彼らが本物の宗教と、キリストの柔和とへりくだりに欠けていることがあられ、彼らが聖霊の働きを必要としていることを示す。

キリストのご命令である、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」というのが、経験の価値のわかる試金石である(ルカ 9:23)。人の傾向や野心的な希望が妨害されるとき、その人はどのような精神が自分を支配しているかを表す。……

このお方[キリスト]はわたしたちすべてにご自分のくびきを負って、ご自分の柔和とへりくだりを学ぶようにと招いておられる。このお方は、彼らには、はっきりとこれが必要であることをご存知である。しかし、だれ一人、キリストの学校で日ごとに学ばない者は、服従と従順のくびきを負うことができない。……だれ一人として、たとえどんなに能力があると思われても、キリストの学校の生徒でない限り試練のテストに堪えることはできない。……

真のクリスチャンは、心を探り、感情を試されるお方、内なるところに真理を要求なさるお方に自分の目を留めている。彼の耐えざる祈りは、「神よ、どうか、わたしを探って、わが心を知り、わたしを試みて、わがもろもろの思いを知ってください。わたしに悪しき道のあるかないかを見て、わたしをとこしえの道に導いてください」である(詩篇 139:23, 24)。(ビュー・アンド・ワウド 1900年10月23日)

## 研磨の工程

「愛する者たちよ。あなたがたを試みるために降りかかって来る火のような試練を、何か思いがけないことが起ったかのように驚きあやしむことなく、むしろ、キリストの苦しみにあずかれればあずかるほど、喜ぶがよい。それは、キリストの栄光が現れる際に、よろこびにあふれるためである。」(ペテロ第一 4:12, 13)

目的なく、神がご自分の民に試練を臨ませることはない。このお方は、彼らがはじめから終わりを見通すことができ、また彼らがこのお方と共に働く者として果たしつつある目的の栄光を識別することができたら、そう導かれたいと望む以外の方法で導かれることは決してない。このお方は試練を通して彼らをへりくだらせ、彼らを導くために訓練の下に置かれる。それは、彼らが自分の弱さを知って、ご自分に近づくためである。……

クリスチャンはキリストの宝石である。彼らはこのお方のために、このお方の麗しきの光を降り注いで、明るく輝かなければならない。彼らの光彩は彼らが受ける研磨にかかっている。彼らは磨かれることもできるし、磨かれずにいることもできる。しかし、主の宮にふさわしいと宣言される者はすべて、研磨の工程に服さなければならない。主がお与えになる研磨なしには、彼らはその辺りの砂利以上に光を反射することはできない。キリストは人に、あなたはわたしのものである、と仰せになる。わたしはあなたを買った。あなたは、今は粗い石に過ぎない。しかし、もしあなたが自らをわたしの手の内に置くならば、わたしはあなたを磨き、そしてあなたが輝かす光彩によって、わたしの名に誉れを帰すであろう。だれもわたしの手からあなたを奪うことはできない。わたしは、あなたをわたしの特別な宝とする。わたしの戴冠式には、あなたは、わたしの喜びの冠の宝石となる。

神なる働き人は価値のない材料にはほとんど時間を費やされない。このお方が、あらゆる荒削りの角を切り落として宮の建物のために磨かれるのは、ただ尊い宝石だけである。この工程は厳しく苦しいものである。それは、人間の誇りを傷つける。キリストは自己満足のうちにいる人が完全だと思っていた経験を深くえぐり、品性から自己称揚を取り除かれる。このお方は、余分な表面を切り落とし、そして石を、まわる砥石に当てて、すべての荒々しさが摩滅するようにそれを強く押し当てられる。それから、宝石を光のうちにかざし、主人はご自身がそこに反映されているのをご覧になり、そしてこのお方はご自分の宝石箱にふさわしいと宣言なさるのである。どんなに厳しくても、石に新たな価値を与える経験は祝福である。(ビュー・アット・ハラム' 1912年3月7日)

9月18日

## 悲しみからの免除はない

「だから、わたしはキリストのためならば、弱さと、侮辱と、危機と、迫害と、行き詰まりとに甘んじよう。なぜなら、わたしが弱い時にこそ、わたしは強いからである。」(コリント第二 12:10)

キリスト教は悲しみの免除を約束してはいない。「わたしたちが神の国にはいるのには、多くの苦難を経なければならぬ」(使徒行伝 14:22)。だから信仰が必要とされている。強く、信頼する信仰、神がご自分の子らが耐え得る以上の大きな誘惑に彼らをくぐらせることはないという信仰である。そのような信仰に何をする力があるかが、パウロによってヘブル人への手紙の中に記されている。迫害と死に直面しながら、神に対する揺るがない信頼を保った人々について、彼は次のように言っている。

「彼らは信仰によって、国々を征服し、義を行い、約束のものを受け、ししの口をふさぎ、火の勢いを消し、つるぎ刃をのがれ、弱いものは強くされ、戦いの勇者となり、他国の軍を退かせた。女たちは、その死者たちをよみがえらせてもらった。ほかの者は、更にまぎったいのちによみがえるために、拷問の苦しみに甘んじ、放免されることを願わなかった。なおほかの者たちは、あざけられ、むち打たれ、しばり上げられ、投獄されるほどのめに会った。あるいは、石で打たれ、さいなまれ、のこぎりで引かれ、つるぎで切り殺され、羊の皮や、やぎの皮を着て歩きまわり、無一物になり、悩まされ、苦しめられ」た(ヘブル 11:33 - 37)。

この世では、信仰の英雄たちは、生きる価値がないものとみなされていた。しかし、天では、彼らは神の子として、最も高い栄誉に値するものと登録されている。「彼らは白い衣を着て、わたしと共に歩み続けるであろう。彼らは、それにふさわしい者である」とキリストは仰せになる(黙示録 3:4)。天の宮廷では、「永遠の重い栄光」が彼らを待っている。「こういうわけで、わたしたちは、このような多くの証人に雲のように囲まれているのであるから、いっさいの重荷と、からみつく罪とをかなぐり捨てて、わたしたちの参加すべき競走を、耐え忍んで走りぬこうではないか。信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか」(ヘブル 12:1, 2)。「なぜなら、このしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させるからである。わたしたちは、見えるものではなく、見えないものに目を注ぐ。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠につづくのである」(コリント第二 4:17, 18)(ビェ・アト・ハルド 1912年3月7日)

## 今日のための力

「わたしはこの三分の一を火の中に入れ、銀をふき分けるように、これをふき分け、金を精錬するように、これを精錬する。彼らはわたしの名を呼び、わたしは彼らに答える。わたしは『彼らはわが民である』と言い、彼らは『主はわが神である』と言う。」  
(ゼカリヤ 13:9)

試練によって、主はご自分の子らの強さを試される。心は耐えるほど強いであろうか。良心には罪がないであろうか。聖霊はわたしたちの霊に対して、わたしたちが神の子であることを証するであろうか。主は、わたしたちを試すことによって、これを確かめられる。苦難の妒の中で、このお方はわたしたちをあらゆるかすから清められる。このお方が、わたしたちに試練を送られるのは不要な苦しみを生じさせるためではなく、わたしたちがこのお方を見上げるようにと導き、わたしたちの忍耐力を強め、わたしたちが反逆せず、ご自分に信頼を置くならば、わたしたちがこのお方の救いを見るようになることをわたしたちにお教えになるためである。……

ご自分の子らを受するキリストの愛は、優しいと同様に強い。それは、死よりも強い愛である。なぜなら、このお方は、わたしたちのために死んでくださったからである。それは、子を思う母の愛より真実なものである。母の愛は変わることがあるが、キリストの愛は不変である。パウロは、「わたしは確信する。死も生も、天使も支配者も、現在のものも将来のものも、力あるものも、高いものも深いものも、その他どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスにおける神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのである」と言っている(ローマ 8:38, 39)。

すべての試練において、わたしたちには強力な慰めがある。わたしたちの救い主は、わたしたちの弱さを思いやってくれるお方ではないであろうか。このお方はあらゆる点においてわたしたちと同じように試みられたお方ではなからうか。そして、このお方は、すべての試練と困惑をご自分の許へ持ってくるようにとわたしたちを招いてくださっているのではなからうか。そうであれば、わたしたちは、明日の重荷を案じてみじめになってはいけない。勇敢にそして快活に今日の重荷を携えなさい。今日の信頼と信仰を、わたしたちは持たなければならぬ。しかし、わたしたちは一度に一日以上を生きることを要求されてはいない。今日のための強さを与えてくださるお方は、明日のための強さも与えてくださるのである。……

不信という鋭い矢ほど魂を傷つけるものはない。試練が来るとき、それは必ず来るのであるが、悩んだりつぶやいたりしてはならない。魂の沈黙が神のみ声をより明瞭にする。「こうして彼らは波の静まったのを喜び」(詩篇 107:30)。あなたは永久のみ腕の下にいることを覚えていなさい。「主の前に黙し、耐え忍びて主を待ち望め」(詩篇 37:7)。このお方は恵み深い経験の港へとあなたを導いておられる。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1902年11月5日)

9月20日

## 信仰が試されるとき

「こうして、あなたがたの信仰はためされて、火で精錬されても朽ちる外はない金よりもはるかに尊いことが明らかにされ、イエス・キリストの現れるとき、さんびと栄光とほまれとに変わるであろう。」(ペテロ第一 1:7)

わたしたちが逆境におちいるとき、また、わたしたちの生来の感情が掻き立てられるとき、そして、わたしたちがそれらを発散したくなくなるとき、そのときわたしたちの信仰が試される。そのとき、わたしたちはキリストの柔和と優しさをあらわさなければならない。わたしたちは一言でさえも自分の生まれつきの感情を表してはならない。「もし、言葉の上であやまちのない人があれば、そういう人は、全身をも制御することのできる完全な人である」(ヤコブ 3:2)。全身一全ての人。わたしたちが必要としているのは、イエスの支配の下にいることである。わたしたちは、自分自身の方法を欲してはいない。わたしは、人が自分の悪い行動を言い訳して、「これがわたしの性質なのです。ご存知でしょう、両親から受け継いだわたしの気質なのです」というのを聞いたことがある。その通りである。そして彼らは、それを 培ってきて、自らそのうちにいるように教育してきたのであって、こうして、すべての自分たちの悪行を言い訳してきた。誘惑に屈する代わりに、彼らは、「わたしは、ありのまま神の御許へ行き、わたしに勝利を賜うようとキリストに嘆願する。わたしは、わたしを愛してくださるお方によって勝ち得てあまりあるようになる」といって、無限の力のみ腕をつかむべきである。

あなたに対するイエスの愛がいかに大きいものであるかを理解するためには、カルバリーを仰ぎなさい。あなたはそのとき、その愛の深さ、広さ、高さを幾分か知ることができる。そして、あなたは救い主が屈辱の谷へと一步一步くだってこられたときの、神と主イエス・キリストのへりくだりの幾分かを見ることが出来る。このお方は罪や汚れにまで身を落とされることはなかった。しかし、このお方はサタンやその軍勢と戦うために、世界のこの原子の上にお立ちになり、ここでわたしたちのために不死の嗣業、しばむことのない……嗣業を勝ち取ってくださったのである。

このお方が高きところに昇られ、とりこを引き連れていかれたとき、そして賜物を人々にお与えになったとき、このお方は闘いをわたしたちの手にゆだねていかれた。しかし、わたしたちは、わたしたち自身の力で戦うのではない。もし、そうしようとすればわたしたちは必ず失敗するであろう。キリストはわたしたちを助けるために見えざる知的存在者を遣わすために、御父と共におられる。……わたしたちに必要なのは、信仰の単純さと、キリストの柔和とへりくだりである。そのとき、わたしたちは天の主完全に信頼し、そして、このお方は、わたしたちを助けるためにわたしたちの右側におられるのである。(ビュー・アンド・ハルド 1892年3月8日)

## 天の榮譽名簿

「しかし彼はわたしの歩む道を知っておられる。彼がわたしを試みられるとき、わたしは金のように出て来るであろう。」(ヨブ 23:10)

自分の天父を愛するクリスチャンは、ほとんどあるいはまったく献身しない者たち以上に天の寵愛を受けているという外面的なみ摂理や目に見えるしるしを見分けることができないかもしれない。しばしば彼は厳しい苦しみを受け、悩まされ、困惑し、四方を囲まれてしまう。一見事態は彼に不利なように見える。……

ヨセフは高潔で、彼の品性には真のいつくしみと目的の堅固さがきわだっていたが、彼は誹謗(ひぼう)され、迫害され、そして、犯罪者として取り扱われた。しかし神は、彼が一見その善行のために苦しんでいるように見えたときでさえ、ヨセフのために目覚しい勝利を用意しておられた。

ダニエルは、原則を堅く守り、神への忠誠を尽くしたために、ししの穴に投げ入れられた。しかし、最後は勝利し、神は卑しめられることを許されたご自分の僕を通して栄光を受けられたのであった。ヨブは、地上の宝をはぎとられ、自分の子供たちを奪われて、自分の友人たちに忌むべき見世物とされたが、神はご自分のタイミングに従って、ご自分がその僕をお捨てにはなっていないことを示された。……

真実で忠実なステパノは、キリストの敵によって、石で撃ち殺された。確かに神がこのように悪人たちが勝利することを許されることによって、地上におけるご自分の働きを強化されるようには見えなかったが、しかし、まさにこの状況から、パウロは信仰へと改心し、そして、彼の言葉を通して、何千という人が福音の光へと導かれたのである。

大事に愛されたヨハネは、さびしいパトモス島で流刑者であったが、ここでイエスは、彼にお会いになり、彼に……キリストの来臨までの各時代にわたる事件を明らかにされ、将来の時代のための主の勧告を知らされた。……彼は神の御座を見、また大いなる患難をくぐり抜けて自分たちの衣を洗い、それらを小羊の血で白くした贖われた者たちが白い衣を着ているのを見ることを許された。(手紙 10, 1879年)

もしあなたが主のために火の燃える炉を通るように召されるならば、イエスはバビロンの忠実な三人の青年たちと共におられたように、あなたのかたわらにおられる。贖い主を愛する者は、主とともに屈辱とそしりに会う機会があるたびに喜ぶ。彼らは、主を愛しているので、主のための苦しみを少しもいとわないのである。(祝福の山 37)

9月22日

## 悲しみのときに

「彼は悩みを与えられるが、そのいつくしみが豊かなので、またあわれみをたれられる。彼は心から人の子を苦しめ悩ますことをされないのである。」(哀歌 3:32, 33)

(一人娘を失った人への慰めの手紙より)

わたしたちも同じ悲しみの杯を飲んでいきます。しかし、そこにはイエスにある喜びと休息と平安が入り混じっています。このお方は、万事を益としてくださいます。わたしたちの天父は、心から人の子を苦しめ悩ますことをされなかつたです。……

この世はわたしたちの試練、わたしたちの悲嘆、わたしたちの悲しみの場です。わたしたちは、ここで神のテストに耐えなければなりません。炉の火がわたしたちのかすを燃やし尽くし、わたしたちが苦難の炉から精錬された金として出てくるまでともされなければなりません。……あなたにとって、時に理解しがたいと思われるこの闇から光が輝きでるでしょう。「主が与え、主が取られたのだ。主のみ名はほむべきかな」(ヨブ 1:21)。これをあなたの心の言葉としてください。あわれみの雲は、最も暗いときでさえあなたの頭上にひろがっています。わたしたちへの神の恩恵は、干上がった地を潤し、生き返らせるために雲からその地に降り注ぐ無数の雨の滴のようなものです。神の恵みはあなたの上にあります。

親愛なるいとしい子マリアは、休んでいます。彼女は、あなたの悲しみとくじかれた望みを共にしていました。彼女には、もはや悲しみや欠乏や悲嘆はありません。あなたは信仰の識別力のある目で、その悲しみと悲嘆と困惑のうちにあつても、あなたのマリアが、彼女の母親やあなたの家族のほかの者と共に、彼女の命の与え主が呼ばれるときに答えて、死と墓に勝利し、彼らの獄屋から出てくることを予見することができます。あなたの信仰は、愛しい亡くなった者が、地から贖われた者たちの間で再び一つになっているのを見ることができます。あなたが、もし忠実であるならば、まもなく彼らと共に、モーセと小羊の歌を歌い、宝石の冠を着けて新エルサレムの町を歩くのです。……

「神を愛する者たち……と共に働いて、万事を益となるようにして下さる」(ローマ 8:28)。あなたの目が開かれるなら、あなたは自分の天父が愛のうちにあなたへと身をかがめておられるのを見ることができるでしょう。もしあなたがこのお方のみ声を聞くことができるならば、それは、苦しみと苦悩に打ちのめされたあなたへの同情のこもったものなのです。このお方の力のうちに固く立っていなさい。あなたのための休息があります。(手紙 71, 1878 年)

## 苦悩を通じてのやさしさ

「神は、いかなる患難の中にいる時でもわたしたちを慰めて下さり、また、わたしたち自身も、神に慰めていただくその慰めをもって、あらゆる患難の中にある人々を慰めることができるようにして下さるのである。」(コリント第二 1:4)

最大の悲しみを担ってきた人々はしばしば、行くところどこへでも日光をもたらして、他人に最大の慰めをもたらす人々である。そのような人たちは、自分たちの苦悩によって、鍛錬され、やわらげられた。彼らは、悩みが自分たちを襲うときにも神への信頼を失わず、このお方の保護の愛に近くよりすがったのであった。このような人たちは、光と同様に闇をもお造りになり、わたしたちの益のためにわたしたちを懲らしめられる神の優しい保護の生きた証拠である。キリストは、世の光であられる。このお方のうちには闇はない。尊い光である！わたしたちは、この光のうちに生きようではないか！悲しみと不平に別れを告げよう。主にあつていつも喜んでいなさい。(コウギャク湖での説教、冊子 1878 年 26)

わたしたちの貴重な時間を、くじかれた望みを悲しみ、家族の輪を曇らせる無益な悲しみにふけることに費やしてしまうのは利己的である。わたしたちは、多かれ少なかれわたしたち次第で幸福が決まる人たちの益となりたいならば快活でいるべきである。……すべてを良い方向に生かし、物事の明るい方を見る習慣を培うことがわたしたちの義務である。わたしたちを曇らせる雲をやり過ごし、忍耐強くまた青空が現れて、祝福の日光が出てくるまで待てよう。……わたしたちはみな、可能な限り自己を忘れて、快活さを養い、他人の生活を明るくすることを努めよう。そのとき、わたしたちは、自分自身の分に不平を言いたくなる気持ちが少ない。

苦しめられている人は、勇気を持つことができる。落胆している人は希望を持つことができる。なぜなら、彼らには、イエスという同情深い友がおられるからである。わたしたちのすべての問題や悲しみを、このお方の同情深い耳に入れることができる。わたしたちが共に集まる時、闇や不信を語ることがないように、わたしたちの人生経験の陰鬱な章を物語ることをやめよう。わたしたちは、わたしたちにあらわしてくださった神の愛、自然の中に、天空に、あらゆる神のみ摂理の賢い取り計らいの中に見られる神の愛を語ろう。わたしたちは、自分たちの行く道を明るくしてきた日の光線を探し出し、感謝の心でこれらの記憶を心に思っていよう。キリストの比類のない愛を思おうではないか。なぜなら、このお方のうちにわたしたちは、耐えざる喜びの主題があるからである。このお方のうちには闇がない。このお方は命の光であられる。万人にぬきんで、ことごとく麗しいお方である。(同上 27)

9月24日

## 雲は過ぎ行く

「心に楽しみがあれば顔色も喜ばしい、心に憂いがあれば気はふさぐ。」(箴言 15:13)

悲しみは訪れては過ぎてゆく。これは、人間の分である。わたしたちは、それを拡大するよりは、むしろ明るく楽しいことを思うよう努めるべきである。冬がその凍りついた覆いを地に広げるとき、わたしたちは、自分の喜びを花や小川と共に凍らせてしまうことなく、陰鬱な日々と身も凍るような風のために絶えず嘆くことはしない。反対にわたしたちは、想像のうちに来るべき夏へと進んでいき、その暖かさや命と美しさを思うのである。逆に、わたしたちは自然がその身に新鮮で明るい喜びの衣を身に着けるのを待つ間に、寒さと雪よりもむしろ、自分たちにもたらされる日光をことごとく享受し、多くの慰めを見いだすのである。

ちょうど今、雲がわたしたちの視界を太陽の明るい光線から遮って、わたしたちは影の中にとり残されている。わたしたちは、そのためにいらだち、文句を言うべきであろうか。そして、その他わたしたちの周りにある明るく美しいことをことごとく忘れてしまうべきであろうか。否、わたしたちは雲を忘れるべきなのであり、太陽が除かれてしまっただけではおらず、再びさらに明るさを増して現れ、それが隠されたことがなかったとき以上に高らかに賞賛され喜ばれるようになるために、ただ一時その顔が覆われているに過ぎないことを覚えるべきである。

神は、わたしたちが自分に訪れるすべての問題を拡大して、生涯を意気消沈して陰気に過ごすことをお喜びにならない。そうすることによって、わたしたちは自分自身をみじめにするばかりではなく、わたしたちの周りにいる人の幸せまで曇らせてしまう。わたしたちは、自分の人生経験における暗い影を探し出してそれをくよくよと考えるべきではない。むしろ、わたしたちの目を開いて、自分を取り囲んでいる多くの祝福を見て感謝するようにわたしたちの五感を目覚めさせるべきである。そうすることによって、わたしたちはただ感謝するようになるばかりではなく、とても幸せになる。

わたしたちが快活でいることが神のみ旨である。このお方はわたしたちが天の日の光線に心を開くことを望んでおられる。このお方はわたしたちの精神が、自分たちの生涯やわたしたちを取り囲む自然の事物に表されているご自分の愛と慈しみに柔らかくされることを望んでおられる。わたしたちと接触する人々は、わたしたちの言葉や行動によって、善か悪かに影響される。わたしたちは、無意識のうちに自分の周囲にある道徳的な雰囲気や自分の品性の香りを放散しているか、あるいはその雰囲気を有害な感化を持った思想や言葉で毒しているかのどちらかである。(コウギヤク湖での説教冊子 1878年 23 - 25)

## イエスが道を灯される

「神はあなたがたをかえりみていて下さるのであるから、自分の思いわずらいを、いっさい神にゆだねるがよい。」(ペテロ第一 5:7)

あなたの問題を人間に持って行ってはならない。それらを主に携えて行きなさい。あなたは、他人があなたの試練においてあなたに同情してくれるはずだと考えるかもしれない。しかし、あなたは時に失望させられる。イエスは、助けを求めてご自分の許に来る者を決して失望させられない。このお方は、今日あなたにわたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう」と仰せになっておられる(マタイ 11:28)。このお方はあなたにご自分のうちに休息をお与えになる。だれ一人、このお方の許に来て助けを受けずに帰された者はない。あなたの重荷を、神なる重荷の担い手に持って行き、このお方があなたのためにそれらを負ってくださることを知って、それらをこのお方にゆだねなさい。……

祝福を受けたいものはだれでもしなければならぬように、自らを助けることにおいて、自分の分を果たしなさい。クリスチャン生涯の困難をくよくよと思っはならない。あなたの試練を語ってはならない。……気落ちした言葉を一言も口にしてはならない。なぜなら、そのような言葉はサタンを喜ばせるからである。……キリストのいつくしみ深さを語り、このお方の力を述べなさい。希望と信頼と勇気の言葉は、不平の言葉と同じようにたやすく言い得るものである。……

敵が、あなたの主はあなたをお捨てになったと言うときあなたはこのお方がそうはなさらないことを知っていることと敵に言いなさい。なぜなら、このお方は「わたしは、決してあなたを離れず、あなたを捨てない」と言われたからである(ヘブル 13:5)。敵を追放しなさい。主の愛を疑うことによってこのお方を辱めることはしないと敵に言いなさい。……

主がわたしたちに与えたいと望まれる助けには限りがない。このお方は罪からわたしたちを守る恵みをわたしたちの生涯に持ち込むようにとわたしたちに命じられる。カルバリーの十字架から、わたしたちのところに自由、希望、そして力もたらされる。このお方の力を疑うことによってあなたの贖い主を辱めてはならない。このお方をいつでも信頼しなさい。「わたしは信じる。わたしはイエスがわたしのために死んでくださったことを信じる」と言って、このお方の恵みの富をつかんでいなさい。あなたの前にある道は暗く見えるかもしれないが、イエスはそれを明るくすることがおできになる。

神にあって喜んでいなさい。キリストは光であって、このお方には、まったく闇がない。神への賛美を語ることをあなたの習慣としなさい。他人を幸せにしなさい。これがあなたの第一の働きである。そうすることによって品性の最善の特質が強められる。魂の窓を天に向かって広く開き、キリストの義の太陽光線を入れなさい。朝に、昼に、夜にあなたの心は天の光の明るい光線で満たされることができる。(レビュー・アンド・ワルド 1904年4月7日)

9月26日

## わたしは目標を目指して押し進む

「兄弟たちよ。わたしはすでに捕えたとは思っていない。ただこの一事を努めている。すなわち、後のものを忘れ、前のものに向かってからだを伸ばしつつ、目標を目ざして走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めているのである。」(ピリピ 3:13, 14)

天の競走においては、わたしたちは皆が走り、皆が賞を受けることができる。このことにおいては、何の不確かさも、リスクもない。わたしたちは、天の恵みを着て、目をあげて不死の冠へと向け、いつも模範となるお方を目の前におかなければならない。……わたしたちの神なる主のへりくだった自己否定の生涯を、わたしたちは絶えず視野に入れていなければならない。そしてそれから、わたしたちの目を賞与の目標に留めて、わたしたちがこのお方を真似ようと努めるとき、もしわたしたちが自分の最善を尽くすならば、確かに賞を得ることができることを知って、確信をもって、この競争を走ることができるのである。……

わたしたちを引きつけるこの偉大な賞与が前にあるとき、わたしたちは、「わたしたちの参加すべき競走を、耐え忍んで走りぬこうではないか。信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走」らないであろうか(ヘブル 12:1, 2)。このお方はわたしたちのために道を指し示してくださった。そして、その全行程において、ご自身の足跡によって印をつけてくださった。(教会への証 2巻 358)

罪に対する闘いを首尾よく戦うためには、あなたはイエスに近くいなければならない。不信を語ってはならない。あなたにはそうする理由がない。キリストは、あなたのために完全な犠牲を捧げてくださった。それは、あなたが神のみ前にキリストのうちにあつて完全な者として立つことができるためである。神は、わたしたちの信仰の欠如をお喜びにならない。不信はいつも魂をキリストから引き離す。

わたしたちの弱さや失望を語ることは感心に値しない。各々、次のように言おう。「わたしは自分が罪に屈することを悲しむ。わたしの祈りが余りにも弱々しく、わたしの信仰がこれほど弱いことを悲しむ。わたしには自分の宗教生活において小人であることを弁解する理由がない。しかし、わたしはキリストにあつて品性の完成を得ようと努めている。わたしは罪を犯したが、それでもわたしはイエスを愛している。わたしは、数多く背信した。それでいてなお、このお方は、わたしを救うために御手を伸ばしてくださった。わたしは、このお方にわたしのすべての過ちを話した。わたしは、恥と悲しみとを持って、わたしがこのお方を辱めたことを告白した。わたしは、十字架を見て言った、このお方はわたしのためにこれらすべてを耐え忍ばれたと。聖霊はわたしに、キリストをあからさまに辱めたわたしの忘恩と罪を示された。罪を知らないお方がわたしを許してくださった。このお方はわたしをより高く、高尚な生涯へと召してくださった。わたしは、前にあるものへと向かって押し進む」。(ビュー・アソド・ハルド 1904年3月10日)

## 「強くあれ」

「目をさましていなさい。信仰に立ちなさい。男らしく強くあってほしい。」(コリント第一 16:13)

皆、クリスチャンの奉仕というのは怠け者のための働きではないということを中心に留めていよう。神は、実行し、危険をも省みない人を召しておられる。サタンと談判することなく、彼に対しては「こう記されている」をもって応じなさい。「男らしく、強くあってほしい」。偽りのない信仰だけが、わたしたちの行動の基礎となり、聖く、純潔な模範によって、活動的で、「熱心で、うむことなく、霊に燃え、主に仕え」ることが可能であることを証明することができる(ローマ 12:11)。そしてそのときすべての商業的な事業が聖書の原則にのっとって行われるのである。

……

わたしたちは心に消えることなく印象付けられるまで、わたしにつながっていないという祝福の招きを何度も何度も繰り返したいのである。み言葉を読みなさい。そして、「主はこう言われる」という光のうちにそれを瞑想しなさい。つながっているという教訓と意味を、それに伴う主張とその約束と一緒に、完全に学ぶことができるまで、祈りなさい。キリストの代表である聖霊は、今やわたしたちの記憶にすべてを思い起こさせるためにわたしたちの世におられる。それは、キリストの要求が忘れられたり、なおざりにされたりしないためである。み言葉を読んで祈りなさい。心の戸が開かれ、聖書の全ての要求と、またそれに対し、自分たちがそれに依存している事を理解していることが分かるまで聖書を瞑想しなさい。聖霊が自分たちに何と言っているかを聞くために待っている者は、むなしく聞くことはない。キリストだけに目を留め、静かにこのお方のみ声が「わたしにつながっていないなさい、そうすればわたしもあなたにつながっていよう」というのを聞くために待ちなさい。……

弱々しい方法で救い主のところに来る者が多くいる。彼らはバプテスマを受けたが、彼らの品性には、目に見える変化がない。わたしたちは、すべての人が来るように、すべての人がキリストにつながっているように、キリストにつながることに日ごとに品性の完全へと前進するようにと招きたいのである。彼らがこうするとき、彼らは、完全な服従を通してのみもたらされる休息を見出すのである。

しかし、わたしはあなたに警告する。あなたが霊性と世俗の間の歩みにおいていかに中間に落ち着くかに気をつけよ。「神と富とに兼ね仕えることはできない」(マタイ 6:24)。あなたは完全にこちらかあるいはあちらの側にいるのである。……キリストはご自分のかたわらに引き寄せられる。サタンは自分の側に引き寄せようと何でも人をひきつけるものを差し出して見せる。あなたはどちらを選ぶであろうか。あなたはどちらの旗印の下に立つであろうか。(原稿 194, 1898年)

9月28日

## 勝利する力

「兄弟たちは、小羊の血と彼らのあかしの言葉とによって、彼にうち勝ち、死に至るまでもそのいのちを惜しまなかった。」(黙示録 12:11)

救い主は深い関心をもって人類の家族をご覧になる。このお方が御父の御許に昇天なさったとき、このお方は、ご自分に従う者たちを助けもないまま残されていたのではなかった。ご自分の地上生活において、このお方は彼らのために勝利なさり、そして、彼らはこのお方の力のうちに勝利するのであった。すべての人に直面すべき試練がある。闘うべき古い生来の傾向がある。しかし、これらの傾向は、イエス・キリストの征服下に置かれなくてはならない。それは、わたしたちが、神と共に有利な立場に立つためである。……

栄光の冠は、小羊の血と自分たちの証の言葉によって誘惑に打ち勝ったすべての者たちの額におかれる。このわたしたちの証の言葉ということに大きな意味がある。それは、全天の宇宙の前であり、また世の前である。自分の言葉とわざによって神を辱め、キリストを自分の救い主として認めない魂は、自らを敗北者の側においているのである。……

イエスはあなたの助け主である。このお方ほどあなたの品性の特徴を理解する人はだれもない。このお方はあなたをご覧になっている。そして、もしあなたが喜んで教えを受けるならば、このお方はあなたの周りを善への感化で取り囲んでくださる。それによって、あなたはあなたに対するこのお方のみ旨をことごとく行うことができるようになる。わたしたちは将来の永遠の命のために準備している。まもなく、大審査が行われる。そこで、クリスチャン品性を完成しようと求めているすべての魂は、神の綿密な質問のテストに耐えなければならない。あなたは、他人が安心して従っていける模範を残したであろうか。あなたは、自分が説明の責任を求められるものとして魂を見張ったであろうか。天の万軍は、あなたがテストに耐えることを非常に切望している。……

主は、一人一人苦闘している魂を最も深い関心を持ってご覧になる。このお方は、各々を愛される。もしそうでなければ、主はわたしたちのために死ぬためにご自分のひとり子をお与えにはならなかったであろう。……

主は、自分の最善を尽くして、神と共にへりくだって歩むすべての者を助けてくださる。わたしたちには、より頼むべき力強い腕があること、またわたしたちがキリストの強さに信頼している限りは、わたしたちが神を辱めることはできないことを信じて勇気を得よう。わたしたちは今試練のときにいる。しかし、すべてのテストの下で、わたしたちは周囲の人々全員に、わたしたちが主の側にいることを明らかにしよう。(原稿 11, 1911 年)

## わたしたちは栄光に満ちた勝利を 収めることができる

「これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」(ヨハネ 16:33)

「わたしがこれらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにも宿るため、また、あなたがたの喜びが満ちあふれるためである」と救い主は仰せになった(ヨハネ 15:11)。克服する働きは、喜びのない働きではない。否、決してそうではない。それは天との交わりを意味している。あなたは、祈りのうちに神の許へ行くことができる。あなたは求めて、受けることができる。あなたは信じて、自分の無力な魂をキリストにゆだねることができる。それは、人性が神のみ旨と方法を行うことができることを意味している。人性と神性はまさにこの目的のために結合するのである。(原稿 19, 1909年)

神は、だれが誘惑の下で忠実であるかを試すために試練をもたらされる。このお方はわたしたちが、自分たちのうちにはなく、また自分たちを超えた力に信頼するかどうかをご覧になるために、わたしたちを厳しい立場におかれる。だれにでも、試練を通じて光に照らされなければならない隠された品性の特質がある。神は自己満足している者が自分の無力さを悟るために、厳しく誘惑されることを許される。このお方は苦悩の大水がわたしたちの魂を覆うのを許される。それは、わたしたちがご自分とご自分が遣わされたイエス・キリストとを知るためであり、またわたしたちが汚れから清められたいという心の深い切望を抱くためであり、そして試練の中から、より純潔に、高潔に、そして幸せになって出てくるためである。わたしたちは、しばしば利己心で暗くなったわたしたちの魂をもって苦悩の炉に入る。しかし、もし苦しいテストの下で忍耐するなら、わたしたちは、神のご品性を反射して出てくるのである。苦難におけるこのお方のご目的が成し遂げられるとき、このお方は「あなたの義を光のように明らかにし、あなたの正しいことを真昼のように明らかにされる」(詩篇 37:6)。

「誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい」(マルコ 14:38)。敵がしのび足でやってくるのに対して見張っていなさい。古い悪習慣や生来の傾向に対して見張っていなさい。さもなければ、それらが我を張って出てくる。それらを押し返し、見張っていなさい。思想を見張り、計画を見張りなさい。さもなければ、それらは自己中心的となる。キリストがご自分の血をもって買われた魂を見張っていなさい。彼らに善を行うための機会を見張っていなさい。(原稿 126, 1907年)

大きな危機がわたしたちの目前にある。その試練と誘惑に会い、その義務を遂行するためには、辛抱強い信仰が要求される。しかし、わたしたちは栄光に満ちた勝利を収めることができる。見張り、祈り、信じる魂は一人として、敵のわなにかかることはない。(同上)

9月30日

## 勝利者の報い

「勝利を得る者は、これらのものを受け継ぐであろう。わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる。」(黙示録 21:7)

わたしたちは、万物の終わりがどれほど近づいているのか悟っていない。わたしたちは、わたしたちが日ごとに勝利者となり、永遠の報いを獲得する必要があるべきほどに感じていない。世にある欲のための誘惑に勝利する者が、神の性質にあずかる者なのである。わたしたちのために犠牲は払われた。わたしたちは、それを受け入れるであろうか。……

神の性質にあずかる者となるには祈りが要求されている。それには、信仰が要求されている。それには理解力が要求されている。しかし、わたしたちがこの経験を得るとき、自分だけを益しているのではない。わたしたちは、自分たちの周囲にいるすべての人に、だれでも神の性質にあずかる者となることができ、まただれでも勝利者になることができるという証拠を与えているのである。

勝利者になることを決心しよう。大規模な神の恵みを求めよう。……世の諸要素によって揺り動かされることがないようにしよう。かえってわたしたちが、日々時々刻々と勝利者となる決心をしていることを示そう。……わたしたちが神に……栄光を帰することができるように、行くところはどこにでも、キリストと真理を表そう。わが兄弟姉妹方、イエスはあなたのためにとりなしをしたいと切望しておられる。イエスにすがりついていなさい。勝利者となるために奮闘しなさい。それは、救い主があなたを神の都に迎え入れ、そこであなたが贖いの恵みの勝利を賛美できるためである。

神の小羊が贖われた者たちの頭に勝利の冠を置かれるとは、いかに喜びに満ちた光景であろう。二度と、決してあなたは誘惑や罪に導かれることはない。あなたは王をその麗しさのうちに見るのである。そして、あなたはそこで、自分が天へ向かうのを助けた人々と出会うのである。彼らは、自分の腕をあなたに回し、あなたが彼らのためにしたことを認める。「あなたはわたしを見てくれました。あなたはわたしのために祈ってくれました。あなたは、わたしが天を獲得できるように助けてくれました」と彼らは言うのであろう。……

わたしたちの前に置かれた喜び、すなわち神の王国でこのお方のみ顔を拝する喜びと、そこから二度と永遠に出ることがない喜びを考えて、全能者の力のうちに前進しよう。わたしたちは、神の性質にあずかる者となること、そして神の御使たちがわたしたちのすぐそばを囲んでおり、わたしたちは罪に打ち負かされる必要がないことを覚えていよう。誘惑のときには、神の御座にわたしたちの嘆願をささげよう。そして、信仰のうちにこのお方の神の力をつかもう。(原稿 49, 1909年)

## キリストと律法 (Ⅲ)



## 律法に対するサタンの敵意

わたしは昨晚、思いに非常な重荷を感じて眠りから目覚めた。わたしはわが兄弟姉妹にメッセージを伝えていた。それは聖霊の受け入れと、人間という代理人を通じて働く聖霊の働きについて誤った理論を擁護している人々の働きに関する警告と教えのメッセージであった。

わたしは1844年の時の通過後に直面するよう要求されたのと同様の狂信が、メッセージの終わりの時代に再びわたしたちの間にもたらされること、またわたしたちはこの悪に、初期の経験において対処したように断固として対処しなければならないことを指示された。

わたしたちは偉大にして厳粛な出来事の門口に立っている。預言は成就しつつある。未知で重要な歴史が天の書物に記されつつある。それは神の大いなる日の直前に起こると宣言されている出来事である。世界の全てのものが落ち着かない状態にある。諸国家は怒っており、戦争のための大掛かりな準備がなされつつある。国家は国家に対して、王国は王国に対して企みをはかっている。神の大いなる日は非常に急いでいる。しかし諸国家が戦争と流血のために集結しているにもかかわらず、御使たちへの命令はなお効力を発し、彼らは神の僕らの額に印されるまで四方の風を引き留めている。

世界は今、神の律法の違反の確かな結果に気づきつつある。神の創造のわざが完成し、主は第七日目に休まれ、ご自分の休息の日を聖別してその日をご自分の礼拝のために捧げられるべき日として取り分けられた。しかし、今日、世界はエホバの律法を完全に無視している。別の日が神の休息の日が変わって制定されてきた。人間の代理人は自分の方法と自分の意志を、はっきりとしたみ言葉の教えに反対して打ち立ててきた。そして世は反逆と罪のうちに突入した。

この神の律法の反対する働きは、天の宮廷で覆うことをなすケルブであったルシファーによって始まった。サタンは天の会議で第一になって神と等しくなろうと決心した。彼は自分の指揮下にいる天使たちとその反逆の働きを始め、彼らのうちに不満の精神を拡散しようと努めた。そして彼は非常に欺瞞的なやり方で働いたので、サタンの目的が十分に知られる前に、多くの天使たちの忠誠を勝ち得た。忠実な天使たちでさえ、彼の品性を十分に識別することも、彼の働きが何に導いているのかを認めることもできなかった。サタンが多くの天使を自分の側に勝ち取るのに成功したとき、彼は自分の主張を神の許へ持っていき、彼がキリストの占めている地位を占めることが天使たちの願いだと表明した。

悪は不満の精神が熟して積極的な反乱になるまで働き続けた。それから、天で戦争があり、サタンは、自分に共鳴したすべての者と共に追放された。サタンは天で支配権を求めて戦争し、敗北した。神はもはや誉と最高位を彼に委ねることがおできにならず、天の統治において彼があずかっていたこれらのものは取り上げられた。

サタンと彼の同盟軍がわたしたちの世界において公に自認した神の敵となつて以来、絶えず真理と義のみ事業に対する戦争が行われてきた。サタンは、天使たちに提示したように人々に絶えず、キリストと神を誤り伝えてきた。そして彼は世を自分の側に勝ち得た。クリスチャン教会だと公言するものでさえ、最初の大背教者の側についてきた。

サタンは自らをこの世の王国の君として表す。そして、サタンが荒野における三つの大きな誘惑の最後にキリストに近づいたのは、この世の王国の君としてであった。彼は救い主にイエスの前に通らせた世の諸国を指し示しながら、「もしあなたが、ひれ伏してわたしを拜むなら、これらのものを皆、あなたにあげましょう」と言った。

天の宮におけるキリストは、もし人類家族がサタンの支配から救われるとすれば、サタンの力に直面し、征服しなければならぬ時が来ることを知っておられた。御父の前で人類の弁護人となられるために、救い主は地上で人間が生きなければならない生涯を送り、人の逆境や悲しみ誘惑をお受け入れになるのであった。ベツレヘムの赤子としてこのお方は人類と一つになられ、まぶねから十字架までのしみのないご生涯によって、人は悔い改めとご自分を信じる信仰の生涯によって、神の恩寵へ戻れることをお示しになるのであった。このお方は人に贖い

の恵み、罪の許しをもたらされるのであった。もし人類が自分の忠誠に戻り、もはや違反をしないならば、許しを受けるのであった。

キリストは人類の弱さのうちに、神が天使家族に授けられたさらに高い性質の力を持った者の誘惑にあわなければならなかった。しかし、キリストの人性は神性と結合していた。そしてこの力のうちにこのお方はサタンがご自分に対してもたらすことのできるすべての誘惑に耐え、なおご自分の魂を罪によって汚されることなく保たれるのであった。そしてこの勝利するための力を、このお方は、ご自分の品性の義なる特質を信仰によって受け入れるアダムのすべての息子むすめに与えて下さるのであった。

神はこの世を非常に大切に愛されたので、ご自分のひとり子を与えて下さった。それはこのお方を受け入れる者はだれでもこのお方の義なる生涯を送る力を持つことができるためであった。キリストは人が信仰によって神の力をつかむことは可能であることを証明なさった。このお方は罪人が、悔い改めとキリストの義を信じる信仰を働かせることによって、神と和解し、神性にあずかる者となり、欲を通して世にある墮落に勝利することができることを示された。

今日、サタンはキリストに提示したのと同じ誘惑を提示し、わたしたちの忠誠の見返りとしてこの世の王国を差し出している。しかし、イエスを自分の信仰の創始者であり完成者として見る者には、サタンの誘惑は何の力もない。あらゆる点においてわたしたちと同じように誘惑されたが、罪は犯されなかったお方の徳を信仰によって受け入れる人に、サタンは罪を犯させることはできない。

「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」自分の罪を悔い改め、神の御子の命という賜物を受け入れる人を打ち負かすことはできない。信仰によって神性をつかみ、彼は神の子となる。彼は祈り、信じる。彼は誘惑され、試されるときに、キリストが与えるために死なれた力をわがものと主張し、このお方の恵みを通して勝利する。これはすべての罪人が理解する必要がある。彼は自分の罪を悔い改めなければならない。彼はキリストの力を信じなければならない。そして自分を罪から救い、守るその力を受け入れなければならない。わたしたちはキリストの模範という賜物にゆえに、どれほど感謝すべきことであろう！

**十字架を避けることを求めてはならない**

人間の創造という深遠な理論や推論であふれているかもしれないが、最後に勝利者になりたい者は、神聖な力により頼むほど謙遜でなければならない。わたしたちはこうして無限のお方の力をつかみ、キリストの許へ来て、「わたしの手にはたずさえる代価はありません。ただあなたの十字架にすがのみです」と言うのである。そのとき、生活を聖化し、純潔にするために神聖な代理人たちがわたしたちに協力することができる。

だれも十字架を避けることを求めないようにしよう。わたしたちが勝利できるようになるのは、十字架を通してである。神聖な代理人たちがわたしたちの生涯において働きを進め、キリストの愛と平安と親切という結果をもたらすことができるのは、苦難と試練を通してである。

偉大な働きが、み言葉の研究によって人の心の中で日ごとに成し遂げられるべきである。わたしたちは真の信仰の単純さを学ぶ必要がある。これには見返りがある。霊的な理解において断固として前進するよう努めよう。尊いみ言葉をわたしたちの勧告者として。わたしたちは毎瞬、注意深く歩み、いつもキリストのそば近くにいつづける必要がある。キリストの霊と恵みが生活の中に必要とされている。そして愛によって働き、魂をきよめる信仰が必要とされている。

わたしたちは神がご自分の民に要求しておられる聖なるご要求を明確に理解する必要がある。律法を、それはこのお方のご品性の写しであるが、だれ一人として理解しそこなう必要はない。石の板に神の指で記された言葉は、非常に完全に神の民に関するこのお方のみ旨をあらわしているため、だれ一人過ちを犯す必要がない。このお方の御国の律法は、後にこのお方の統治の諸原則としてあらゆる国家の民や国語に表されるべく、明確に知らされた。わたしたちは出エジプト記 20 章と 31 章 12-18 節に記録されたこれらの律法を研究するのが望ましい。

さばきの座につき、数々の書物が開かれるとき、すべての人はそれらの書に記されていることに従ってさばかれることになる。そのとき、かの日以来神によって隠されていた石の板は、世の前に義の標準として提示されることになる。そのとき男女は自分たちの救いの必要条件は、完全な神の律法への従順であることを認めるようになる。だれ一人罪のために言い訳はない。その律法の義なる諸原則によって、人々は命か死の宣告を受けるのである。

ヘレグッド・メッセージ 1 巻 221-225

「おおかみは小羊と共にやどり、ひょうは子やぎと共に伏し、……小さいわらべに導かれ」「彼らはわが聖なる山のどこにおいても、そこなうことがなく、やぶることがない」(同 11:6, 9)。

そこにはもはや涙はなく、葬式の行列も喪章もありません。「もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。先のが、すでに過ぎ去ったからである」「そこに住む者のうちには『わたしは病気だ』という者はなく、そこに住む民はその罪がゆるされる」(黙示録 21:4, イザヤ 32:24)。

そこには栄化された新しい地の首都、新しいエルサレムがあります。「またあなたは主の手にある美しい冠となり、あなたの神の手にある王の冠となる」彼女の光は「その都の輝きは、高価な宝石のようであり、透明な碧玉のようであった」「諸国民は都の光の中を歩き、地の王たちは、自分たちの光栄をそこに携えて来る」(イザヤ 62:3; 黙示録 21:11, 24)。

主は言われます「わたしはエルサレムを喜び、わが民を楽しむ」「神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして」(イザヤ 65:19, 黙示録 21:3)。

地は新しく造られ、義人だけが住むでしょう。「汚れた者や、忌むべきこと及び偽りを行う者は、その中に決して入れない」(黙示録 21:27)

神さまの律法は日の下のすべての者によってあがめられます。このお方の戒めを守ることによって神さまに真実であることを自ら証明した者たちは、このお方と共に住むでしょう。

「彼らの口には偽りがなく」「彼らは大きな患難をとおってきた人々であって、その衣を小羊の血で洗い、それを白くしたのである。それだから彼らは、神の御座の前におり、昼も夜もその聖所で神に仕えているのである」(黙示録 14:5; 7:14, 15)。(完)

## 玉ねぎの詰め物あんかけ

### ■材料

玉ねぎ	2 玉
木綿豆腐	100 グラム
椎茸	2 個
顆粒昆布だし	小さじ1
水	2 カップ
塩	一つまみ
ショウガ	1 かけ
きざみネギ	適量
しょう油	大さじ1
水溶き片栗粉	小さじ2 と 1/3 カップ
塩	少々

### ■作り方

1. 玉ねぎの皮をむいてへたとおしりを落とし、輪切りの方向に半分に切ります。
2. 表面の二枚ほど残して中をくりぬきます。(へた付近のすぼんでいるほうから思い切り押し出します)
3. くりぬいた内側をみじん切りにします。
4. みじん切りにした玉ねぎときざんだ椎茸を炒めて、木綿豆腐を1：1：1の比率で混ぜます。(玉ねぎの大きさをみて、椎茸や豆腐の分量を調節してください)
5. 塩を加え、軽く混ぜてから玉ねぎの中に詰めます。
6. 鍋に詰め物の入った玉ねぎと水、昆布だし、しょう油、きざみショウガを入れて煮ます。
7. 柔らかくなったら、取り出して器に盛ります。
8. 鍋に詰め切れなかった玉ねぎのみじん切りを加えて塩加減を調節し、玉ねぎに火が通るまで煮ます。
9. 火が通ったら、水溶き片栗粉を鍋に入れて、とろみが出るまで火にかけます。
10. 玉ねぎにあんをかけ、その上にきざみネギを散らして完成です。

## 教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



## 聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係  
是非お申し込み下さい。

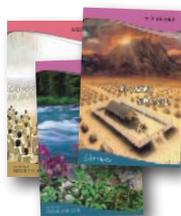


## 書籍

【永遠の真理】 聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】 は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



イエスの物語

## 第66話

## 救われた者の家郷(Ⅱ)

そこで天の羊飼いはご自分の群れを生ける水のいずみに導かれます。命の木は毎月実り、そしてその木の葉は諸国民に奉仕します。

水晶のように透き通った小川が絶えず流れており、そしてそれらのわきには木がなびき、主に贖われた者のために備えられた道の上に影を落としています。広々とひろがった平原の果ては、美しい丘となって盛り上がり、神の山々が高くそびえ立っています。この平和な平原に、また生ける流れのほとりに、久しい年月の間旅人であり寄留者であった神の民が、その住まいを見出すのです。

「わが民は平和の家におり、安らかなすみかにおり、静かな休み所における」「暴虐はもはやあなたの地に聞かれず、荒廃と滅亡は、もはやあなたの境のうちに聞かれず、あなたはその城壁を『救い』ととなえ、その門を

『誉』ととなえる」(イザヤ 32:18; 60:18)。

「彼らは家を建てて、それに住み、ぶどう畑を作って、その実を食べる。彼らが建てる所に、他の人は住まず、彼らが植えるものは、ほかの人が食べない。……わが選んだ者は、その手のわざをながく楽しむ」(同 65:21)。

そこには「荒野と、かわいた地とは楽しみ、さばくは喜びて花咲き、さふらんのように」「いとすぎは、いばらに代わって生え、ミルトスの木は、おどろに代わって生える」(同 35:1; 55:13)。



(43 ページに続く)